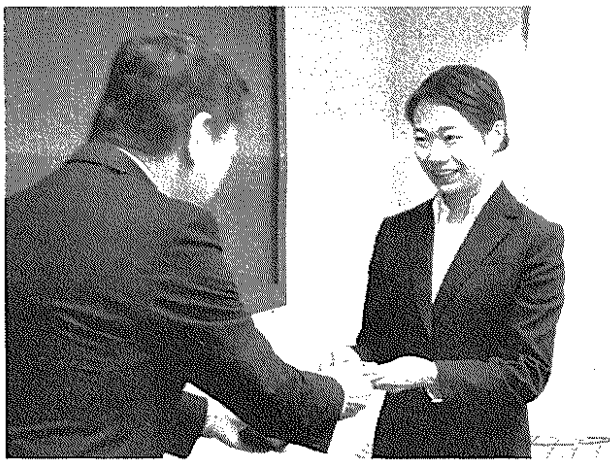
２０１９年（平成３１年）２月２４日　日曜日
デーリー東北　１５面　掲載

県都だより

今春から介護福祉士、保育士

奨学生ら支援に感謝

県生保協会が交流会



記念の名刺入れを使って小林泰雄会長（左）と名刺交換をする学生

生命保険協会青森県協会（小林泰雄会長）は20日、同協会の奨学金支給を受けて技術を学び、2019年度から介護福祉士を対象にした制度は、高齢者介護に携わる人材確保に貢献しようと、同協会が1989年度から実施。原則的に返済義務はなく、1人当たり年間24万円が支給され、これまでに135人が利用した。また、2017年度からスタートした保育士養成給付型奨学金制度では、2人が利用している。

現場に巣立つ介護福祉士と保育士、その指導者らとの交流会を青森市で開いた。給付を受けた奨学生らは、支援に感謝し、新社会人としての抱負を語った。

会合の冒頭、小林会長は「学校で学んだことを社会で生かし、立派な介護福祉士、保育士になってほしい」と激励。卒業記念品として名刺入れを贈った。

八戸学院光星高専攻科の新堂麻衣さん(20)＝三沢市出身＝は取材に、「奨学金のおかげで安心して日々の勉強に集中できた。頼ってもらえるような介護福祉士を目指したい」と笑顔を見せた。

（五十嵐美咲）

デーリー東北新聞社提供